

令和6年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況点検及び評価

宮城県教育振興基本計画

～志を育み、復興から未来の創造へ～

目指す姿

学校・家庭・地域の強い絆のもとで、多様な個性が輝き、ふるさと宮城の復興を支え、より良い未来を創造する高い志を持った、心身ともに健やかな子供が育っています。

そして、人々が生きがいを持って、生涯にわたり、多様に学び、交流する中で、豊かな文化と活力のある地域社会が形成されています。

目標

- 1 自他の命を大切にし、高い志と思いやりの心を持つ、心身ともに健やかな人間を育む。
- 2 夢や志の実現に向けて自ら学び、自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む。
- 3 ふるさと宮城に誇りを持ち、東日本大震災からの復興、そして我が国や郷土の発展を支える人間を育む。
- 4 学校・家庭・地域の教育力の充実と連携・協働の強化を図り、社会全体で子供を守り育てる環境をつくる。
- 5 生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。



◆大河原町教育振興基本計画◆

「笑顔」「元気」「学び」

～志を高め 学び継ぐ ひとづくり～



大河原町の教育振興を図るためにには、地域・家庭・学校・行政がそれぞれの役割を担いながら、連携・協働し、それぞれの世代や立場で必要な人材を育成していく「ひとづくり」が不可欠になっています。

そのために第3期基本計画においても第2期基本計画を継承し、全ての町民が、「笑顔」で「元気」に「学び」続けられる町を目指し、「生涯学習の姿」「家庭・地域の姿」「子供の姿」「学校・教職員の姿」と対象を明確にするとともに、「ひとづくり」の実現に必要な施策と具体策・目標値を示しています。これにより教育関係者ならびに、広く町民の理解と協力を仰ぎ、共に学び・高め合うことをねらいとしています。

◆目指す姿

- | | |
|------------|--------------------------|
| 1.生涯学習の姿 | 生き生きと学ぶ町民 |
| 2.家庭・地域の姿 | 明るい家庭 支える声が響く地域 |
| 3.子供の姿 | 笑顔があふれ、元気いっぱい、学力を向上させる子供 |
| 4.学校・教職員の姿 | 信頼される学校・教職員 |

◆教育委員会の充実

2015年4月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正」により、大河原町では2016年度に「新しい教育委員会制度」がスタートしました。このことにより教育委員会は、さらなる教育の政治的中立と教育行政の安定性を確保し、多様化している町民のニーズに応えながら教育・文化の振興に努めるとともに、会議の公開など、開かれた教育委員会をいっそう推進します。

また、教育委員会事務局においては、教育行政における基本方針や重点施策をひまえ、家庭・地域・学校への支援や教育環境の整備・充実に取り組みます。さらに、事務の管理及び執行状況の点検・評価を的確に実施し、常に改善に努め、信頼される教育行政を実現します。

大河原町の教育の基本的方向と令和6年度重点的取組

1. 生涯学習の姿 【目標】生き生きと学ぶ町民

◆基本的方向 1 持続可能な生涯学習の拠点整備

施 策

- (1) 町民が生涯にわたり楽しく学べる環境づくり
- (2) 「誰でも、いつでも」学べるセーフティネットの推進（学習拠点・居場所づくり）
- (3) 公民館・図書館等を活用した学習拠点づくり

主な具体策

- ① 公民館を起点とした「にぎわい創出」の自主事業展開
- ② 「本館」と「絵本と学びのへや」を活用した図書館事業展開
- ③ 「放送大学」を活用した、生涯にわたって学び続ける機会の提供、PR活動
- ④ 公民館主催「土曜子供塾」

令和6年度重点的取組

施 策	(3) 公民館・図書館等を活用した学習拠点づくり
主な具体策	③「放送大学」を活用した、生涯にわたって学び続ける機会の提供、PR活動 ④公民館主催「土曜子供塾」
目的・目標	<ul style="list-style-type: none">・働きながら大学を卒業したい、学びを楽しみたいなど、さまざまな目的で、幅広い年代や職業の人達が生涯にわたって学び続けることで人生をより豊かにする。・大河原町小中学校の通塾率では、小学6年生が24%、中学3年生が43%であり、小学校6年生の約7割、中学3年生の約6割が塾に通っていない状況にあることから、塾に通っていない児童生徒に学習機会を提供し、学力向上を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none">・放送大学と連携を図り、啓発活動を通じて、放送大学の強みと言える多彩な授業スタイルや、資格取得とキャリアアップを図る社会人等のニーズに応える広報を行なう。・中央公民館と金ヶ瀬公民館で、小中学校の児童生徒に学習機会を提供する。参加児童生徒の自学自習への学習指導及び子供の話し相手としてのサポートを図る。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2023 年度)	達成値 (2024 年度)	目標値 (2027 年度)
1	「公民館・図書館の充実」に対する満足度（5段階評価）	3.4	3.4	3.8
2	中央公民館年間来館者数	20,870人	22,366人	33,000人
3	金ヶ瀬公民館年間来館者数	6,485人	8,604人	12,000人

4	駅前図書館来館者数	18,013人	18,460人	46,000人												
5	放送大学利用者数	59人	44人	80人												
成果		《成果》														
課題等		<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度からの事業として、中央公民館、金ヶ瀬公民館で「土曜子供塾」を開講し、小学5年生から中学3年生の学習機会の提供に努めた。児童生徒は、教科書や問題集を持参し、自学自習を行ない、分からぬ問題がある時はコーディネーターの先生や大学生に教えてもらい、学力向上を図った。 														
		<p>※受講者数〔中公:小21人、中16人〕・〔金公:小7人、中2人〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館主催事業として「わくわく親子昆虫教室」「おおがわら歴史学講座」など町民の教養向上に資する講座を開催した。また、駅前図書館では絵本と学びのへやを利用した「お話し会」「ハッピータイム」を通じて、子どもたちの健やかな成長、保護者と地域との交流を支援する事業展開に努めた。 ・「金ヶ瀬中学校吹奏楽部・合唱団オータムコンサート」を主催し、地域の活性化、コミュニティづくりに努めた。 														
《課題》		<ul style="list-style-type: none"> ・未就学児から高齢者まで生涯にわたり学ぶことができる環境の構築が必要であるとともに、新たな仲間づくりの輪を広げる場が求められている。 ・事業運営ボランティアの確保のため、引き続き学校と連携した募集の周知が必要である。 														
内部評価		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 33px;">A</td><td colspan="2">目標を上回って達成した</td></tr> <tr> <td style="text-align: center; width: 33px;">(B)</td><td colspan="2">目標をほぼ達成した</td></tr> <tr> <td style="text-align: center; width: 33px;">C</td><td colspan="2">目標をやや下回った</td></tr> <tr> <td style="text-align: center; width: 33px;">D</td><td colspan="2">目標を下回った</td></tr> </table>			A	目標を上回って達成した		(B)	目標をほぼ達成した		C	目標をやや下回った		D	目標を下回った	
A	目標を上回って達成した															
(B)	目標をほぼ達成した															
C	目標をやや下回った															
D	目標を下回った															
外部評価		<p>□「土曜子供塾」も3年目に入り受講者数も増え、「勉強したい」という児童生徒の気持ちに応えた事業と言えます。自主性を大事にしながらも確実な学力を身に付けるためにその子に合った適切な指導も実施されています。今後も継続し、さらに充実させていってほしい。</p> <p>□駅前図書館での絵本と学びの部屋の事業も町の広報等で紹介され、楽しみにしながら参加している親子も多く評価できます。</p> <p>■「土曜子供塾」のボランティアを確保するために、特に近隣大学との連携を密にし、更なる人材確保に努めてほしい。双方向に大きなメリットがあります。</p> <p>B</p> <p>◇「土曜子供塾」の継続は、塾に通っていない児童・生徒の学びの場の一つとして大変意味のある取り組みです。今後も呼びかけ等の工夫により尚一層受講者数が増えることを期待します。</p> <p>◇公民館や図書館の来場者の増加は大変喜ばしいことです。「お話し会」や「歴史学講座」など、幅広い年代の町民が生きがいを持って学べる行事の開催にこれからも期待しています。</p> <p>◆運営ボランティア確保のため、募集方法の工夫が必要かもしれません。ボランティア活動の楽しさや充実感を伝え、興味を持って「やってみたい」と思ってもらえるような周知の方法を工夫してほしいと願います。</p>														

凡例 □プラス評価・意見等

■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等

◆改善点等の評価・意見

◆基本的方向 2 伝統文化・芸術活動等の推進

施 策

- (1) 文化財や伝統文化等の保存・継承
- (2) 芸術文化に親しめる環境づくり

主な具体策

- ⑤文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進
- ⑥無形文化財保持団体の活動の場の拡大
- ⑦えずこホールとの連携による芸術文化事業の推進
- ⑧郷土愛を育む「親子町内史跡巡り」等の開催

令和6年度重点的取組

施 策	(1) 文化財や伝統文化等の保存・継承
主な具体策	⑤文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進、文化財展示室の設置 ⑧郷土愛を育む「親子町内史跡巡り」等の開催
目的・目標	・町内の自然、風土、歴史、文化的遺産などの文化財を地域全体で継承するとともに、貴重な学習資源とともに、郷土愛を育む社会教育活動に活用する。
重点的取組	・文化財、伝統文化を守り育てるとともに次世代に継承していくため、住民参加の事業を実施し住民の歴史、文化の理解を深める。佐藤屋プロジェクトと連携しての企画展、文化財講演会、古文書解説講座、歩いて石碑めぐり講座、親子対象の史跡めぐりを開催し、事業推進を図る。 ・町内の文化財説明看板にQRコードを設置し、文化財を紹介する映像や音声解説を見ることのできる動画を制作する。解説者がいなくても容易に理解しやすく、文化財めぐりの講座などでの活用していく。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2023 年度)	達成値 (2024 年度)	目標値 (2027 年度)
1	「芸術文化・文化財」に対する満足度（5段階評価）	3.5	3.5	3.8
2	文化財企画展・講演会来場者数	260人	186人	300人
3	無形文化財団体の活動機会の充実	2回	2回	6回
4	芸術文化事業 青少年小劇場・青少年劇場小公演の実施	実施	実施	継続して実施

成果 課題等	《成果》 <ul style="list-style-type: none">・東北大学東北アジアセンターの協力のもと、町内の旧家や町教育委員会所蔵の古文書の調査、研究を継続的に実施し、歴史資料の保存に努めるとともに、所蔵品を活用して「初めての古文書解説講座」を開催し、町民の生涯学習機会の創出を図った。・中屋敷前遺跡から出土した瓦をテーマに『大河原町で見つかった古代瓦とその謎』と題した「文化財講演会」を開催し、文化財の継承や周知広報に努めた。また、昨年に続き「親子で文化財めぐり」を開催し、郷土の文化財について親子で学ぶ機会を提供した。・国及び町指定無形民俗文化財を有する「大高山神社」、「繁昌院」の記録保存を
-----------	---

	<p>行い、町ホームページ等で公開を行い、町の民俗文化財について関心を促し啓発を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術を身近に鑑賞する「青少年劇場小公演（小中学生）：リンゴマ～アフリカからの大地のリズム～」を開催し、生の音楽芸術体験の機会を提供し、青少年の豊かな人間形成を図った。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の詳しい歴史を知る町民が減り続けているほか、文化財専門職員もいないため、町の文化財保護や伝承活動が年々停滞している。 ・文化財講演会や文化財パネル展、佐藤屋プロジェクトの共催企画など、多くの町民に文化財への関心と郷土愛を育む事業を実施していく必要がある。 ・民俗収蔵室の解体後、民俗収蔵品の公開ができていない状況にあるため、今後の方向性や施設整備について検討していく必要がある。 ・圏域文化活動の中心となる仙南芸術文化センターの運営、施設管理、維持機能修繕への負担額が増加している。えずこホールの企画する住民グループ支援、体験事業、鑑賞事業の周知を図り、町民の文化芸術推進を図る。 	
内部評価 B	A	目標を上回って達成した
	(B)	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価 B	<p>□所蔵品を活用した古文書解読講座や遺跡から出土した瓦をテーマにした文化財講演会などを開催し、文化財の継承や周知広報に努めていることは評価できます。</p> <p>■実施している講座や講演会で教材化できるものは、「小山田やすとこ」や「堤神楽」と同様、小学校及び中学校の年間指導計画に入れ指導できる内容かを検討してもいいと思います。学校を継承、伝承の場の一つとしてみてはいかがでしょうか。また、コミュニティスクールの委員会の場で、教材化について話し合ってみるのもいいかと思います。</p> <p>◇「初めての古文書解読講座」をはじめ、「親子で文化財めぐり」などの継続開催は大変意味のある活動です。素晴らしい企画なので、今後は参加者増に向けて、“参加者の声”を広げるなど呼びかけ方法の工夫も必要かもしれません。</p> <p>◆民俗収蔵品の公開が滞っていますが、町民が町の歴史について関心を持ち、学ぶことのできる施設の整備が進むことを期待しています。</p>	

凡例

- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見
- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見

2. 家庭・地域の姿 【目標】明るい家庭 支える声が響く地域

◆基本的方向3 学校・家庭・地域との協働による教育の推進

施 策

- (1) 地域学校協働活動の充実
- (2) コミュニティ・スクール事業との連携
- (3) 各種団体等と連携した地域で子供を育てる体制づくり
- (4) 部活動の地域移行促進

主な具体策

- ⑨コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の充実に向けた支援
- ⑩ボランティアバンクの再整備とよりよい運用
- ⑪放課後子供教室事業による子供の居場所づくりの推進
- ⑫子ども会育成会連絡協議会の活動支援
- ⑬部活動地域移行促進

令和6年度重点的取組

施 策	(4) 部活動の地域移行促進
主な具体策	⑬部活動地域移行促進
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化が進む中でも、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保する。 ・「地域の子供たちは、地域で育てる」という意識のもと、地域のスポーツ・文化資源を最大限活用し、生徒のニーズに応じた多様で豊かな活動を実現する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動地域移行推進協議会の開催により、地域移行への体制整備を図る。 ・仙台大学や地元企業等と連携し協力を得ながら、外部指導員の確保に努める。 ・部活動地域移行コーディネーターを配置し、学校及び外部指導委員との連携を図り地域移行を促進する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2023年度)	達成値 (2024年度)	目標値 (2027年度)
1	休日地域クラブ活動実施率 (部活動地域移行の状況)	—	91.7%	100%
2	地域の外部指導者※配置率 ※ 部活動顧問(兼職兼業)以外	—	68.1%	100%
3	生徒対象アンケート調査「より専門的な指導を受けることができた」(肯定的な回答の割合)	—	89.0%	95%
4	保護者対象アンケート調査「より専門的な指導を受けることができた」(肯定的な回答の割合)	—	76.1%	95%

成果 課題等	《成果》 ・地域移行対象の部活動24のうち22の部に外部指導者を派遣し、休日地域クラブ活動を実施することができた。
-----------	--

		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象のアンケート調査では、外部指導者による指導を肯定的に捉えている生徒の割合が高かった。 ・バレーボール男子クラブにおいて、大河原中と金ヶ瀬中の合同による練習会を実施し、休日地域クラブ活動としての新たな形態を探ることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3割近くの地域クラブに部活動顧問（兼職兼業）以外の外部指導者を配置できなかった。また、外部指導者42名のうち部活動顧問（兼職兼業）が20名を占め、教員への依存度が高かった。地域の外部指導者をさらに確保する必要がある。 ・合同練習の在り方を工夫するなど、生徒にとって魅力ある休日地域クラブ活動を開拓する。（リガーレ仙台等との連携、合同トレーニングの実施など）
内部評価	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価 A	□	部活動の地域移行促進については、教育委員会内に部活動地域移行コーディネーターを配置することで、地域ー教委ー学校の連携がスムーズに行われ、地域移行の促進が十分に図られていると評価できます。また、地域移行コーディネーターが学校事情に精通していることも成果の要因です。今後は、体育系の大学を中心とした複数大学や地域の方との連携がさらに深まっていくことを期待しています。
	■	<p>部活動の顧問については、兼職兼業の教員の位置付けが課題だと思います。顧問をしたいという希望や意欲を大事にしながらも、なくす方向に行くのであれば、そこは慎重に進めたい部分であると考えます。</p> <p>大学との連携には拡大がみられます、各大学内での情報提供や周知、募集の仕方について、可能な範囲で一步踏み込んだ打合わせができればいいと思います。</p> <p>◇部活動地域移行について、大変よい形で行われているように思います。生徒、保護者のアンケート調査や各大会での活動状況を見ても、楽しみながら力をつけていくように思われます。今後も「合同の練習会」など、生徒がより楽しんで力を発揮していけるような環境づくりに期待します。</p> <p>◆地域の外部指導者の配置については、生徒や保護者の声を聞き、指導者の状況を見ながら慎重に進めていってもいいかもしれません。</p>

凡例 □プラス評価・意見等

■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等

◆改善点等の評価・意見

◆基本的方向 4 家庭・地域の学びや活動の支援

施 策

- (1) 家庭教育、子育て世代等の学び支援
- (2) 各種関係機関と連携した支援体制の整備

主な具体策

- ⑯学校や保育園、幼稚園等を対象とした家庭教育講座の開催
- ⑰駅前図書館を利用した家庭教育支援事業
- ⑱中学生を対象とした子育て理解講座の開催
- ⑲子育てサポーター、家庭教育支援チームの活動の場の拡大、活動支援

令和6年度重点的取組

施 策	(1) 家庭教育、子育て世代等の学び支援
主な具体策	⑯学校や保育園、幼稚園等を対象とした家庭教育講座の開催 ⑰子育てサポーター、家庭教育支援チームの活動の場の拡大、活動支援
目的・目標	・子供を地域全体で育むために、家庭と地域、学校・保育園等をつなぐ仕組みをつくり、協働による教育活動をとおして、家庭・地域の教育力向上を図る。
重点的取組	•町内の小中学校、町立保育所、私立幼稚園・保育所、幼児児童施設の子育て講座の開催、周知を図り、多くの子育て世代への学び支援を図る。また、希望する内容については、さまざまな分野の取組みを紹介し、選択の幅を広げ、推進する。 •子育て支援を行なう子育てサポーター養成を積極的に行い、家庭教育支援の体制を整えていく。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2023 年度)	達成値 (2024 年度)	目標値 (2027 年度)
1	家庭教育講座実施数	14 講座	16 講座	20 講座
2	子育てサポーター養成講座 参加者数	28 名	39 名	50 名
	大河原子育てサポーター「笑」 会員数	9 名	12 名	15 名
3	「絵本と学びのへや」での家庭教育事業参加者数	135 名	266 名	150 名

成果 課題等	《成果》		
	<ul style="list-style-type: none"> 町内保育所（園）、幼稚園、児童館、児童センター、小中学校において「子育て親育ち講座」を開催し家庭教育向上に努めた。回数の増や内容の充実により事業終了後の参加者アンケートではとても好評であり、小さい子を持つ親の心に響いたようである。また、各施設担当者からも非常に感謝され、今後も生涯学習課にお願いしたいとの要望を受けている。 「子育てサポーター養成講座」は人材育成事業として重要な位置づけとしている。家庭教育や子育てに悩む親を地域全体で支援する環境づくりとして、子育てサポーターサークルの会員増を図っており、2024年度受講者から3名子育てサポーター「笑」への加入があった。また、生涯学習ガイド等を活用したサークル会員募集の周知も行っている。 		
《課題》			
内部評価	A	目標を上回って達成した	
	B	目標をほぼ達成した	

B	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価		<p><input type="checkbox"/>子育てに悩む親が増えている中、子育ての情報をネットで検索している親がとても多いのが現状です。しかし、実際に話を聞いたり悩みを打ち明けたりする場として「子育て親育ち」等の家庭教育講座が多く開催されていることは、アンケート結果から見ても不安な親のニーズに応えたものであり、大いに評価できます。</p> <p><input type="checkbox"/>講座の受講者から子育てサポーター「笑」へ加入するという流れが昨年から続いており、今後も会員増に向けて工夫しながら取り組んでほしいと思います。</p> <p>◆「子育て親育ち講座」の開催は、小さい子供を持つ親にとって大変励みになる事業です。感謝の声が届いているのも大変喜ばしいことです。今後も、親子の心に寄り添った講座の開催に期待しています。</p> <p>◇子育てサポーター「笑」に、3名のサポーター加入があったことは大変喜ばしいことです。子育てに悩む親を町全体で支えていけるよう、会員増に向けて適切な支援をしてほしいと願います。</p>

凡例

プラス評価・意見等

■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等

◆改善点等の評価・意見

◆基本的方向 5 地域の発展につながる多様な学びの提供

施 策

- (1) 時代に即したかつ社会的課題に対応した社会教育事業の展開
- (2) 各種団体やボランティアの育成と活用の推進

主な具体策

- ⑯公民館事業・教室参加者の満足度向上を目指す事業推進
- ⑯ジュニア・リーダーの育成と活動支援
- ⑯青年会活動への助言と活動支援
- ⑯地域資源(人的・物的資源)を生かした昆虫展の充実
- ⑯高齢者のための生きがいづくり事業の推進
- ⑯町民文化祭の充実と文化協会の活動支援
- ⑯市民団体(NPO等)との協働・活動支援

令和6年度重点的取組

施 策	(1) 時代に即したかつ社会的課題に対応した社会教育事業の展開
主な具体策	⑯ 地域資源(人的・物的資源)を生かした昆虫展の充実 ⑯ 市民団体(NPO等)との協働・活動支援
目的・目標	・文化、芸術、その他さまざまな生涯学習に関する知識や経験、技能を活かすことのできる人材を発掘し、支え、協力し、地域が活性化される活動をサポートするとともに、柔軟に連携させながら地域をまとめていくリーダー、リーダーを支える人材の育成を図る。
重点的取組	・地域の歴史や文化を共有し、マスコミ等を活用しながら積極的に情報発信し地域活動のPR、事業への参加者の拡大を図る。 ・生涯学習の講座からサークル、団体の誕生を目指し、住民の皆さんが出合う「きっかけ」の場として講座やイベントの開催を図る。 ・地域資源を最大限に生かした「昆虫展」を開催する。充実した昆虫標本の展示に加え、昆虫とのふれあいコーナー、小学生の昆虫の絵コンクールなどの魅力発信に努める。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2023 年度)	達成値 (2024 年度)	目標値 (2027 年度)
1	昆虫展来館者数	985人	1,096人	900人
2	講座からの新規社会教育団体の発足	0	0	3団体
3	文化協会加盟団体の促進	46団体	43団体	50団体
4	ジュニア・リーダーの会員数	18名	18名	25名
5	学校開放の年間利用団体数	49団体	47団体	70団体

成果 課題等	《成果》 <ul style="list-style-type: none">・「世界・日本の大昆虫展」「昆虫の絵コンクール」については、期間中、1,000人を超える来場者があり、昆虫を“見る、触れる、学ぶ”を通して自然に対する興味関心を醸成することができた。・故渡部徳氏からご寄附いただいた貴重な地域資源を最大限生かし、「世界・日本
-----------	---

	<p>の大昆虫展」のほか、町内小中学校5校を巡回する「移動昆虫展」を開催したことで、ほとんどの児童生徒が休み時間、昼休み時間に見学してくれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界・日本の大昆虫展は、人的な地域資源である「大河原昆虫同好会会員」を講師に迎え、来場者への解説を行っていただいた。昆虫展の開催を心待ちにしていた親子も多く、企画展には満足いただけたと捉えている。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 昆虫同好会のようにノウハウと知識を持った民間団体の協力が必要である。同好会の継承基盤を確保するため、地域支援者養成の支援を行う。 昆虫展を夏休みの大人気イベントとして定着させるため、更に昆虫看板の追加作成や、創作コーナーなど、趣向を凝らして昆虫展を充実させる。 	
内部評価 B	A	目標を上回って達成した
	(B)	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価 A	<p>□コロナ禍に始まった5学校を巡回する「移動昆虫展」は大好評であり、担任の先生を連れて一緒に見に来る子供も多いと聞いています。自由研究やその後の興味・関心の深まりに発展している子供もいるのではないかと想像できます。</p> <p>□「昆虫展来館者数」が1,000人を超えたことは大きく評価できます。体験的な内容が入っているのがとてもいいです。また、「昆虫の絵コンクール」への出品数も多く、普段学校で配慮が必要なお子さんの多くが意欲的に出品し、さらには賞をもらうことが多いようです。生かされる子どもが多い本事業の継続や更なる工夫等を期待しています。</p> <p>■5校への移動昆虫展を、夏の公民館での「昆虫展」の準備段階ととらえ、2つの事業をリンクするもの（呼びかけ等も含む）を構築していくば、夏の人気イベントへの糸口になると考えます。</p> <p>◇「世界・日本の大昆虫展」や「昆虫の絵コンクール」に1,000人を超える来場者がいたことは大変喜ばしいことです。親子や友人同士で、本物を“見る・触れる・学ぶ”機会があるのは大変素晴らしいこと。今後も自然に対する好奇心が育つような企画を期待しています。</p>	

凡例

- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見
- △プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見

3. 子供の姿 【目標】笑顔があふれ、元気いっぱい、学力を向上させる子供

◆基本的方向 6 【笑顔】豊かな心の育成

施 策

- (1) 夢を育む「志教育」の推進
- (2) 命を大切にする教育の推進(道徳教育、防災教育)
- (3) 「共に学ぶ」特別支援教育の推進(インクルーシブ教育)
- (4) おおがわらの歴史や文化にふれ、郷土愛を育む教育の推進
- (5) 読書活動の推進

主な具体策

- ㉕ 10歳のつどいや立志式、職業人の話を聞く会の実施、おおがわらの先人集の活用による夢や志の育成
- ㉖ 「全学級道徳の日」を中心とした道徳的実践力の育成
- ㉗ 防災訓練等を通じた自助・共助の実践力の育成
- ㉘ 早期発見早期支援事業による適切な就学指導の充実と研修会の実施
- ㉙ 町教員補助員によるきめ細やかな支援の充実
- ㉚ おおがわらの暗唱読本、社会科副読本事業、おおがわらの先人集の活用継続と改訂
- ㉛ 学校司書補助員、駅前図書館、暗唱読本を活用した「読書のすすめ」

令和6年度重点的取組

施 策	(1) 夢を育む「志教育」の推進
主な具体策	㉕ 10歳のつどいや立志式、職業人の話を聞く会の実施、おおがわらの先人集の活用による夢や志の育成
目的・目標	・夢や志をもち、将来に向かって切磋琢磨するたくましい児童生徒を育成する。
重点的取組	・総合的な学習の時間や学校行事等でおおがわらの先人集を活用するとともに、志集会等、職業人の話を聞く機会を設けるなどして、児童生徒の夢や志を高め、それを実現しようとする態度を育てる。

施 策	(2) 命を大切にする教育の推進(道徳教育、防災教育)
主な具体策	㉖ 「全学級道徳の日」を中心とした道徳的実践力の育成 ㉗ 防災訓練等を通じた自助・共助の実践力の育成
目的・目標	・「全学級道徳の日」をはじめ、道徳の授業を通して、児童生徒の道徳的実践力の育成を図る。 ・防災・避難訓練等を通じて、自他の命を守る知識を身に付け、行動できる子供を育成する。
重点的取組	・各校で「全学級道徳の日」を設定し、命の大切さやいじめ撲滅等をテーマにした道徳の授業を実践する。 ・各学校の実状に合わせた防災安全マニュアルの見直しを行い、学校・地域に応じた防災避難訓練やボランティア組織の活用を促す。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2023 年度)	達成値 (2024 年度)	目標値 (2027 年度)
1	全国調査「児童生徒質問紙」将来の夢や目標を持っていませんか。(「当てはまる」の割合)【小6、中3対象】	小 64.9% 中 46.3%	小 63.2% 中 41.9%	小 80% 中 50%

2	全国調査「児童生徒質問紙」 自分にはよいところがあると思 いますか。（「当てはまる」の割合）【小6、中3対象】	小 43.8% 中 31.8%	小 32.8% 中 33.5%	小 60% 中 40%
3	おおがわらの暗唱読本、社会科副読本、おおがわらの先人集の改訂	2023年度は改訂増刷なし	暗唱読本増刷 1,000冊	暗唱読本（'25） 先人集（'26） 社会科副読本（'27）
4	町内小中学校図書貸し出し数の増加（年間一人当たり平均）	小 59.8冊 中 8.2冊	小 64.8冊 中 8.7冊	小 70冊以上 中 12冊以上

成果 課題等	《成果》														
	<ul style="list-style-type: none"> 志教育講演会や職業人に話を聞く会などの事業を通して、「将来の夢や希望をもっている」に小学生・中学生ともに「あてはまる」と回答した割合が、県・全国平均を上回った。 町内全校で「全学級道徳授業の日」を実施し、親子で考える道徳授業を行うことができた。 大河原中のプロジェクトMASを中心に、町の防災訓練に参加したり、町全体で安全のつどいを開催したりして児童生徒の安全に対する意識が高まった。 町内の小中学校の図書貸し出し冊数が昨年度に比べて増加した。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や希望をもっている、と回答した児童生徒の割合は昨年度と大きな変容は見られなかった。 自分にはよいところがある、と回答した児童の割合が減少した。 														
内部評価 C	<table border="1"> <tr> <td>A</td><td colspan="2">目標を上回って達成した</td></tr> <tr> <td>B</td><td colspan="2">目標をほぼ達成した</td></tr> <tr> <td>C</td><td colspan="2">目標をやや下回った</td></tr> <tr> <td>D</td><td colspan="2">目標を下回った</td></tr> </table>			A	目標を上回って達成した		B	目標をほぼ達成した		C	目標をやや下回った		D	目標を下回った	
A	目標を上回って達成した														
B	目標をほぼ達成した														
C	目標をやや下回った														
D	目標を下回った														
外部評価 B	<p>□「将来の夢や希望をもっている」と回答した児童生徒の数はあまり伸びていませんがそれでも全国値を超えており、評価できます。これは、大河原町独自の「志教育」の推進とキャリア教育が小中学校の教育に浸透しているからだと考えます。</p> <p>□全学級道徳授業の日は、親と子、そして教師が「命」や「いじめ」について考える貴重な場となっており、家族同士の話題にもつながると考えます。また、学年全学級が同じ教材を扱うことで教員同士の教材研究にも深まりが見られます。親子、そして教員にとって道徳教育の深まりが期待でき評価できます。</p> <p>□中学校の町防災訓練への参加、そして5校が参加する町安全のつどいは地域住民とともに防災安全を考え意識を高める大切な機会となっています。また、地域が子供を育てることは勿論のこと、地域をつないだり、地域に一体感を持たせたりする場として学校がこのような形で加わることは学校が果たす重要な役割になりつつあると感じます。</p> <p>◇小中学校において図書の貸し出し数が増えたのは大変喜ばしいことです。今後も本を手に取りやすい環境を整え、本に親しむ児童生徒がさらに増えることを期待しています。</p> <p>◇「全学級道徳の日」は大変意味のある取り組みだと考えます。親子で命の尊さや人の気持ちを考えることで、児童生徒の「孤立」を防ぎ、「いじめ」の減少につながっていくことと思います。</p>														

	◆ 「自分にはよいところがある」と思える児童の減少について様々な活動を通して「小さな成功体験」を積み重ねることにより、自己肯定感や自信が生まれるかもしれません。一人ひとりに寄り添い、具体的に褒め、前向きな気持ちになれるような声掛けに期待します。
--	--

凡例 □プラス評価・意見等 ■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等 ◆改善点等の評価・意見

◆基本的方向 7 【元気】健やかな身体の育成

施 策

- (1) 「はやね・はやおき・あさごはん（ルルブル運動）」等による生活習慣の定着
- (2) 学校給食を中心とした食育の推進
- (3) 体力向上への取組の推進

主な具体策

- ③②「明日青のつどい」による健全育成体制の継続
- ③③給食センターの活用や栄養教諭による学校訪問指導による食育の充実
- ③④仙台大学との連携事業、部活動等を通じた体力・運動能力の向上

令和6年度重点的取組

施 策	(3) 体力向上への取組の推進
主な具体策	③④仙台大学との連携事業、部活動等を通じた体力・運動能力の向上
目的・目標	・体育の授業等での効果的な運動、部活動を通じて、生涯を通じて体を動かすことが好きな児童生徒を育成する。
重点的取組	・仙台大学と町内3小学校との体力づくり連携事業等を実施し、効果的な体力や運動能力の向上を図るとともに、運動好きな児童生徒を育成する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2023 年度)	達成値 (2024 年度)	目標値 (2027 年度)
1	全国調査「児童生徒質問紙」 朝食を毎日食べていますか 【小6、中3対象】	小 88.6% 中 77.1%	小 86.8% 中 77.0%	小 90% 中 85%
2	※全国調査「児童生徒質問紙」 ゲーム・携帯時間(2時間以上) の縮減【小5、中1対象】	小 32.7% 中 64.4%	小 56.9% 中 55.0%	小 30% 中 40%
3	小学校3校における仙台大学との体力づくり連携事業の実施	町独自財源による実施	町独自財源による実施	町独自財源による実施
4	全国体力・運動能力テストの総合評価A・B合計の割合 全国との乖離をプラスにする 【小5 中2】	小男 -0.6 女 +0.1 中男 +6.0 女 +11.7	小男 -2.4 女 +2.3 中男 +6.0 女 -1.2	小中 男女とも ±0

※現在の全国調査には、この項目はないため、2024 年度は町独自の調査による参考値である
(本町の調査では、小中学校とも全学年を対象としている)。

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 「明日青のつどい」では、町内の児童生徒が保護者、地域の方と話し合って決めた「おおがわらデジタルメディアスローガン」を発表することができた。 全国体力・運動能力テスト合計得点で小5女子 (+0.9) ・中2男子 (+1.6) は全国平均を上回った。小5男子 (-1.1) ・中2女子 (±0) もほぼ全国と同等の合計得点となった。 仙台大学との体力つくり連携事業では、授業を受けた児童は運動の楽しさを感じ、運動する機会や時間を増やしたいと回答した児童が約 90% と非常に多かった。 								
《課題》	<ul style="list-style-type: none"> デジタル端末等の使用状況や睡眠時間に関するアンケート調査の結果を見ると、中学生はやや改善の傾向が一部の回答で見られたが、全体的にはデジタル端末の使用時間は増加傾向、睡眠時間は短縮傾向が見られ、今後改善への取組がさらに必要な状況であった。 仙台大学連携事業において、仙台大学の先生の授業に対しては児童や教員の評価が非常に高かったが、学校として年間を通して継続した取組がやや不十分だったため、「運動が好き」という児童の割合は大きな変容が見られず、運動の時間が増えたという児童の割合も大きく増えることはなかった。 								
内部評価 C	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">A</td><td style="padding: 5px;">目標を上回って達成した</td></tr> <tr> <td style="padding: 5px;">B</td><td style="padding: 5px;">目標をほぼ達成した</td></tr> <tr> <td style="padding: 5px; background-color: #e0e0e0;">(C)</td><td style="padding: 5px;">目標をやや下回った</td></tr> <tr> <td style="padding: 5px;">D</td><td style="padding: 5px;">目標を下回った</td></tr> </table> 外部評価 B <p>□仙台大学との連携授業は、アンケート結果からも成果が明らかです。体力テストの数値を上げるためだけではなく、運動の楽しさを感じ取らせることを目的とし、運動する過程を通して数値が後からついてくるという抑えが成績に表れていることは大きく評価できます。</p> <p>□SNSやスマホ等の課題がある中、児童生徒が話し合い「おおがわらデジタルメディアスローガン」を自らが発表したことによる大きな意味があります。保護者、地域の方々との対話を通じて結果を出すという流れが大きく評価できます。これから町内の児童生徒の取り組みに期待しています。</p> <p>◇仙台大学との体力つくり連携事業において、運動の楽しさを感じた児童が増えていくのは、大変喜ばしいことです。今後も児童・生徒が体を動かすことの楽しさ、大切さを身に付けていけるような取り組みを継続していってほしいです。</p> <p>◆小学生の「ゲーム・携帯時間(2時間以上)」の調査結果を見ると、使用時間の増加が見られます。「使用を制限させる」だけでなく、児童自らがルールを作り、守れるような働きかけを期待します。</p>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	(C)	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
(C)	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								

凡例 □プラス評価・意見等

■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等

◆改善点等の評価・意見

◆基本的方向 8 【学力】確かな学力の育成

施 策

- (1) 基礎的・基本的な学習の充実
- (2) 活用する力を育成する取組の推進
- (3) 言語力の育成・言語活動の充実
- (4) 国際理解教育、情報通信教育の推進

主な具体策

- ⑯学力向上策「対話的な学び」のある授業と「指導と評価の一体化」の推進
- ⑯全国学力・学習状況調査の全国平均正答率を上回るための全国学力調査問題の活用
- ⑰おおがわら算数チャレンジ・数学オリンピック事業の継続
- ⑱暗唱読本、「小学生の英単語ノート」等を活用した言語活動の充実
- ⑲外国語教育充実に向けたALT配置の継続と活用の充実
- ⑳ICT教育への先進的取組(タブレットの充実活用とICT支援員配置による)

令和6年度重点的取組

施 策	(1) 基礎的・基本的な学習の充実
主な具体策	⑯学力向上策「対話的な学び」のある授業と「指導と評価の一体化」の推進
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「対話的学び」を取り入れ、授業の改善を図る。 ・学習評価PDCAサイクルを確立し、教員の指導力向上と児童生徒の学力向上を図る。 ・年間評価計画に基づいた「指導と評価の一体化」を推進する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査問題(過去問)等を取り入れた年間評価計画の作成と、それに基づいた実践を行う。 ・年3回の学力向上推進委員会の開催を通して、1年間のスパンを踏まえた学習評価PDCAサイクルを確立する。 ・少人数学級の実現や教科による少人数学習等のきめ細かな指導をおこなうため、町内小中学校に任期付き教員(町採用教員)を継続配置する。
施 策	(4) 国際理解教育、情報通信教育の推進
主な具体策	⑲外国語教育充実に向けたALT配置の継続と活用の充実
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語・外国語教育、国際理解教育の充実及び情報通信教育の推進により、子どもたちが次代をたくましく生きるための素地を育てる。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における英語・外国語活動の充実に向け、継続してALTを配置する。 ・外国の学校との交流活動を促進することで、多様な価値観や広い視野をもつた人材を育成する。 ・小学5、6年生で英単語ノート「小学生の英単語」の活用を図る。 ・タブレットPCの活用やプログラミング教育を推進することで、児童生徒の情報活用能力や論理的な思考力を向上させ、「主体的に深い学び」による学力向上の一助とする。 ・おおがわらさくら祭りに向けた小学生英語ガイドを養成し、英語に親しむ機会を設ける。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2023年度)	達成値 (2024年度)	目標値 (2027年度)
1	全国調査の平均正答率の乖離をプラスにする(国語の全国比)【小6、中3対象】	小 +7.8 中 +0.2	小 -3.7 中 -2.1	小中 ±0以上

2	全国調査の平均正答率の乖離をプラスにする(算数・数学の全国比)【小6、中3対象】	小 +4.5 中 -5.0	小 -6.4 中 -3.5	小中 ±0以上
3	各小中学校での年間評価計画の作成・活用	印刷配布 実施	印刷配布 実施	実施
4	算数チャレンジ・数学オリンピックへの参加児童生徒数	小 90人 中 36人	小 75人 中 18人	小 100人 中 50人
5	ALT活用による「おおがわら桜まつり」等における小中学生の英語ガイドの育成	実施 (8人)	実施 (15人)	実施
成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 町教職員研修会で早稲田大学田中博之教授を継続してお呼びして講演をいただいた成果もあり、大河原中学校を中心に、「指導と評価の一体化」に向けた研究が進み、各校でより適切な評価の在り方について学ぶ取組が広がった。 小学校では基本的にすべての英語の授業にALTが入り、児童の英語に対する意欲の高まりが感じられた。また、「おおがわら桜まつり」における小中学生の英語ガイドの人数が徐々に増え、取組が定着してきた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度に関しては、全国学力・学習状況調査における平均正答率が小中ともに国語・算数数学で下回った。 タブレット端末の活用について、ICT支援員のサポートにより、中学校は日常的に活用できる状況ができているが、小学校は活用の場面がやや限定期であった。 			
内部評価 C	A B C D	目標を上回って達成した 目標をほぼ達成した 目標をやや下回った 目標を下回った		
外部評価 A	□町として「対話的な学び」と「指導の一体化」の2本立てで取り組むことにより、学力向上への取組に安定さが増していると感じます。また、5校が同じ意識で取り組むことは当然ですが、「対話的な学び」は大河原小学校が中心に、「指導と評価の一体化」は大河原中学校というように核となる学校が決まっていることで、各学校が立ち位置や役割が認識しやすく、成果を得ている要因だと考えます。今後も継続した取組を期待しています。 □「小学生の英単語ノート」は内容も吟味されており、しかも単語数も教科書に合わせて更新され、とても実用的です。また、英語に対する関心と単語の確実な修得が期待されます。 □町採用任期付き教員を配置することは確実な効果が見込まれ、教員に心理的余裕ができるとともに、きめ細かな指導や幅広い指導が可能となり、評価できます。今後も適切な予算を組み是非継続してほしい。 ■タブレット端末の活用が増えたかどうかでの評価だけでなく、「主体的で深い学び」に結びつく活用ができているかどうかの評価も、引き続きお願ひします。			
B	◇合格体験記「志」は、これから受験を乗り越えようとしている生徒と保護者にとって“道しるべ”となり、同時に学習意欲を高めてくれる大変素晴らしい体験談集です。合格者がどのように学んだかが記されており、受験生が自身の学習計画を立てる上で大きな力になると考えます。			

◇英語に対する意欲の高まりや「おおがわら桜まつり」の小学生英語ガイドが増えてきたのは素晴らしいことです。外国人観光客も増えている昨今、取り組みを定着させ、生きた英語に触れる機会や英検への挑戦などさらに学びを広めていってほしいと考えます。

◆「小学生の英単語」について、図書室や中学年の教室に配置して興味のある児童が手に取れるようにしたり、毎日の自主学習に取り入れたりするなど、さらに活用の幅を広げていってほしいと思います。

凡例 □プラス評価・意見等

■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等

◆改善点等の評価・意見

4. 学校・教職員の姿

【目標】信頼される学校・教職員

◆基本的方向9 学校組織力の向上

施 策

- (1) チーム学校による創意・活力に満ちた学校づくりの推進
- (2) 保・幼・小・中連携教育、異校種間連携の推進
- (3) 学校・保護者・地域による学校評価の推進

主な具体策

- ④学校評価を中心としたカリキュラム・マネジメントによる開かれた教育課程の推進
- ④「子どもが行きたくなる学校づくり」推進
- ④幼・保・小連携による接続カリキュラム、スタートプログラムの実践
- ④コミュニティ・スクール活動の充実 ※生涯学習との連携

令和6年度重点的取組

施 策	(2) 保・幼・小・中連携教育、異校種間連携の推進
主な具体策	④幼・保・小連携による接続カリキュラム、スタートカリキュラムの作成
目的・目標	・幼稚園・保育所・小学校間での連携を密にするとともに、小学校におけるスタートカリキュラムを実施することで小1プロブレムを緩和する。
重点的取組	・小学校新1年生がスムーズに学校生活や学習活動に入れるよう、小学校におけるスタートカリキュラムを年間計画に位置付け実施する。

※小1プロブレム 小学校新1年生が集団行動をとれない、授業中に座っていられない、教員の話を聞けないなどの学校生活になじめない状態

施 策	(3) 学校・保護者・地域による学校評価の推進
主な具体策	④コミュニティ・スクール活動の充実
目的・目標	・学校・保護者・地域の連携による「地域とともにある学校づくり」を推進するため、令和4年度に全校に設置したコミュニティ・スクール(南小は令和3年度から)をより充実させる。
重点的取組	・地域とともにあるコミュニティ・スクール事業の推進及び体制の構築を図る。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2023 年度)	達成値 (2024 年度)	目標値 (2027 年度)
1	学校評価アンケートによる「各学校の「よく当てはまる」の回答」の全平均率	37.8%	34.5%	45%
2	全国調査による「児童生徒質問紙」学校に行くのは楽しい。 ('当てはまる'と回答した割合の全国比)	小 - 0.1 中 - 8.3	小 - 2.6 中 - 10.2	小 +5以上 中 ±0以上

成果 課題等	《成果》 ・幼・保・小連携協議会の開催を中心に、適切な情報交換が行われるとともに、町教育委員会と子ども家庭課が連携して、就学前の小学校見学や相談を行うことで、適切な就学指導が行われた。
-----------	---

		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール制度の周知が広がり、各校の話し合いにおいて、学校と保護者・地域が協働して子供たちの成長にかかる建設的な話し合いが行われるようになってきた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校で魅力的な学校づくりの取り組みを続けているが、今年度に関しては児童生徒の「学校に行くのが楽しい」という肯定的な回答の割合がやや減少した。 ・学校評価アンケートに対する保護者の評価は、昨年度とほぼ同程度の評価であった。
内部評価 C	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価 B	□	学校、地域、保護者が連携したコミュニティ・スクールが各学校で行われていることが、地域学校協働本部での実践報告から読み取れます。また、コミュニティ・スクールが地域や各種団体をつなぐ役割を果たしており、それが大きな力となり、学校を支える力となっているように感じます。
	◇	幼・保・小連携協議会を通して、適切な情報交換や、就学前の個別の学校見学が行われたことは大変評価します。悩みを持つ児童や保護者にとって、大変ありがたい取り組みです。今後も不安を抱える児童や、保護者に寄り添った形で丁寧にサポートしてほしいと思います。
	◆	「学校に行くのが楽しい」と思える児童・生徒の減少について、何でも話せる環境と雰囲気をつくり学校の中で楽しみを見つけることにより少しずつ改善していくかもしれません。一人ひとりが「充実感・幸福感」を実感できるような取り組みに期待します。

凡例 □プラス評価・意見等 ■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等 ◆改善点等の評価・意見

◆基本的方向 10 教職員の資質・指導力の向上

施 策

- (1) 町内教職員研修の充実
- (2) 校内実践研究の推進と各種研修機会提供の充実
- (3) 教職員の多忙軽減の推進

主な具体策

④大学教授招聘による質の高い校内研修の実施

⑤ICT機器等の整備、部活動支援員の配置

令和6年度重点的取組

施 策	(2) 校内実践研究の推進と各種研修機会提供の充実
主な具体策	④大学教授招聘による質の高い校内研修の実施
目的・目標	各学校での「教師指導力向上研修」の継続実施により、「対話的な学び」を成立させる聞き合い学び合う授業が展開できるよう校内実践研究の推進と教職員研修の充実を図る。
重点的取組	・各学校において、大学教員等を招聘し教育課題解決に向けた校内研修会を実施することで教員の指導力向上と児童生徒の学力向上を図る。
施 策	(3) 教職員の多忙軽減の推進

主な具体策	⑯ICT機器等の整備、部活動支援員の配置
目的・目標	・教職員の働き方改革の一助として、ICT機器の活用推進、ICT支援員や部活動支援員の継続配置等により、業務の改善・軽減を図る。
重点的取組	・ICT支援員の継続配置等を通じて、教員のスキル向上を目指し、児童生徒一人一台のタブレットPCの有効な活用促進を図る。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2023年度)	達成値 (2024年度)	目標値 (2027年度)
1	学校における教育の情報化の実態等に関する調査「教員のICT活用指導力の状況」(できる)	21.5%	22.3%	30%
2	時間外勤務の縮減 (各校種1日あたりの平均時間)	(23年度実測値) 小 1時間44分 中 2時間12分	(24年度実測値) 小 1時間48分 中 1時間52分	小1時間30分以内 中2時間以内

成果 課題等	《成果》		
	<ul style="list-style-type: none"> 大学の先生方を招いての「教師の指導力向上研修会」での研修を中心に「対話的な学び」に対する先生方の理解が深まり、普段から「対話的な学び」を取り入れた授業が定着してきた。 ICT支援員を活用した研修会の実施等を通じて、教員のICTに関する知識理解が進み、中学校を中心にタブレット端末の日常的な活用が行われるようになった。 部活動地域移行（展開）の取組が進み、休日の活動に多くの部活動支援員を派遣できる環境が整ってきた。 時間外勤務については、町教育委員会の環境整備と各校の努力が相まって、町全体としては縮減傾向が見られた。特に中学校では、大きな時間短縮が進んでいる。 		
《課題》			
	<ul style="list-style-type: none"> 普段の授業において定着してきた「対話的な学び」を中心とした授業を展開することにより、児童生徒の更なる意欲の向上と学力向上につなげる取り組みを進める必要性がある。 休日の部活動地域移行（展開）をさらに推進し、実質的に教員の負担が軽減できる形に近づけていく必要がある。 		
内部評価 B	A	目標を上回って達成した	
	B	目標をほぼ達成した	
	C	目標をやや下回った	
	D	目標を下回った	
外部評価 B	<p>□外部講師を招聘した研修会を町の予算で開催していることは、教職員にとってとてもありがたいし、貴重な研修の場となっています。しかも、著名な方が講師になつており専門的な話が聞けるので、質の高い校内研修が各学校で行われ、教師の指導力の向上に大きく結びついていると言えます。</p> <p>□各校の指導力向上研修会で「対話的な学び」の理解を深めていくことにより、大河原町の教職員が授業づくりに対して共通の目標をもつようになり、大河原町としての教職員の一体感を感じます。</p>		

	<p>◇町全体として時間外勤務の縮減が見られたのは大変喜ばしいことです。今後も先生方が余裕をもって児童・生徒と関わり、生きがいをもって働いていけるようさらなる負担の軽減を期待します。</p> <p>◇「教師の指導力向上研修会」を通して大学の先生方から専門的な知識を得ることにより、授業はより質の高いものになると思われます。先生方自身の視野も広がり、より魅力的な授業から個別最適な学びにつながっていくことと思います。</p>
--	---

凡例 □プラス評価・意見等 ■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等 ◆改善点等の評価・意見

◆基本的方向 1 1 安心して学べる教育環境づくりの推進

施 策

- (1) いじめ・不登校対策、教育相談等の充実
- (2) 学び支援のためのセーフティネットの構築（就学援助、育英・奨学金等）
- (3) 学校危機管理体制の充実（防災教育）
- (4) 家庭・地域への情報発信の推進
- (5) 教育施設の適切な維持・管理と適切な運用

主な具体策

- ④7スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー活用の充実
- ④8おおがわら子どもの心のケアハウス事業
- ④9各種援助・支援等の適正受給及び「学び支援教室」事業の継続
- ⑤0安全担当主幹、防災主任による学校危機管理マニュアルの整備、防災訓練、体制の確立
- 51学校だより、ホームページ、緊急メール配信、広報おおがわら等による積極的な情報発信
- 52学校施設の老朽化対策と施設安全管理点検等の実施

令和6年度重点的取組

施 策	(1) いじめ・不登校対策、教育相談等の充実
主な具体策	<ul style="list-style-type: none"> ④7スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー活用の充実 ④8おおがわら子どもの心のケアハウス事業
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、ケアハウス事業を継続し、不登校等に悩む児童生徒、保護者の不安を軽減するとともに、復帰に向けた学力の保障を行う。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、ケアハウス間での連携をさらに密にし、不登校の予防と早期対応を目指す。 ・心のケアハウス事業を継続し、不登校児童生徒への支援の中核となる「教育支援センター化」を進めるとともに、多様な学びの場を提供し、児童生徒の学力の保障を軸とした、学校復帰を目指す。

施 策	(5) 教育施設の適切な維持・管理と適切な運用
主な具体策	52学校施設の老朽化対策と施設安全管理点検等の実施
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した学校施設について、優先順位をつけ改修や長寿命化対策等を行う。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・金ヶ瀬小校舎、屋内運動場外壁ほか改修工事、大河原小遊具改修工事等の環境整備を行う。 ・各小中学校の空調設備設置工事を計画的に行う。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2023年度)	達成値 (2024年度)	目標値 (2027年度)
1	おおがわら子どもの心のケアハウス事業の継続	県補助事業(人件費7/10)により継続	県補助事業(人件費6/10)により継続	町独自財源による継続実施
2	町内小中学校の不登校者出現率の縮減	小 3.67% 中 7.05% (R6.3月末)	小 4.21% 中 6.85% (R7.3月末)	小 1%以下 中 3%以下
3	学校評価アンケートによる「学校からの情報提供等」(各学校のよくあてはまる等の項目)	42.8%	35.9%	45%
4	2027年度までに建設40年を経過する学校施設の大規模改修・長寿命化の実施 (該当施設…金小校舎・体育館、南小校舎・体育館、大中校舎、金中校舎の計6)	実績なし	金小校舎・体育館	2/6施設

成果 課題等	《成果》	
	<ul style="list-style-type: none"> おおがわら子どもの心のケアハウス事業、学び支援教室の開設、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーが参加する定期的な教育相談部会の開催等により、教室以外で学びを進めることができる児童生徒が増えてきた。特にケアハウスによる送迎や、学び支援教室による支援は児童生徒の登校への意欲喚起や、保護者が安心して登校させる環境整備として大きな効果が認められた。 中学校の不登校出現率は、昨年度に比べてやや改善が見られた。 金ヶ瀬小学校の校舎・体育館の長寿命化工事を実施して、外壁がきれいになり、雨漏り等への対策も実施された。 	
《課題》		
内部評価 C	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った

外部評価	<p>□子どもの心のケアハウスと各校の学び支援教室との連携ができており、双方に効果が確認できます。特に、学び支援教室の定期的な会議には、関係機関（町、事務所、教委等）の関係担当者全員が集まり、各案件に対しての情報共有と支援の方向性の確認・助言ができると伺っています。また、多くの不登校児童生徒が、どこかでだれかとつながるようになってきたことも、関わる各関係機関の担当者の熱意のお陰だと感じ取れます。</p> <p>□車の侵入止めや雨漏り対策など適宜行ったり、また、計画的に施設の長寿命化工事を行ったり、児童生徒が安全に生活できるように適切に対処しているところが評価できます。</p>
B	<p>■不登校児童の数が増えている要因の一つに、「学校に行かなくてもいい」ことも一つの選択肢であったり、フリースクール等の支援が拡大していたりすることが挙げられます。この点は理解できます。その上で、学校としては、登校できるように常に学級を耕したり、対話的な学びを工夫し自己有用感を味わえる授業づくりを実施したりするなど、不登校児童生徒を迎える体制を学級で常に構築しておきたいという意識は今後も持ち続けていきたいところです。</p> <p>◇学校へ行けずにいる児童・生徒が、教室以外で学びを進めることができるようになってきたのは大変素晴らしいことです。ケアハウスによる送迎や学び支援教室でのサポートは、児童・生徒や保護者にとって大きな心の支えとなっており、これから学びへの意欲につながっていくものと思われます。</p> <p>◆不登校や問題行動の増加について、原因を理解し家庭との連携を密に行い、児童の気持ちを含めた信頼関係を築くことから取り組んでほしいと思います。</p>

凡例

- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見
- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見